

令和4年度 第5回 名古屋市環境影響評価審査会
会議録

1 開催日時

令和5年1月23日（月）午後2時～3時45分

2 開催場所

12A 会議室（西庁舎12階）

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止を図るため、審査会委員はWEB会議システムにより参加

3 出席者

(1) 審査委員（五十音順、敬称略）

青木	聡子	（名古屋大学准教授）
石井	仁	（名城大学教授）
市野	良一	（名古屋大学教授）
岡村	聖	（名古屋産業大学教授）
香川	雅子	（愛知学院大学非常勤講師）
片山	直美	（名古屋女子大学教授）
黒澤	浩	（南山大学教授）
佐野	泰之	（愛知工業大学教授）
都竹	愛一郎	（名城大学教授）
夏目	知道	（愛知県立芸術大学准教授）
西田	佐知子	（名古屋大学准教授）
西野	隆典	（名城大学教授）
橋本	啓史	（名城大学准教授）
藤田	素弘	（名古屋工業大学教授）
洞澤	秀雄	（南山大学教授）
増田	理子	（名古屋工業大学教授）
横田	久里子	（豊橋技術科学大学准教授）

計 17 名

(2) 事務局 地域環境対策部長始め 5 名

(3) 傍聴者 3 名

4 議事及び意見等の要旨

事務局より、今回の審査会の出席者が17名であり、審査会が成立していることを確認した。また、本日のスケジュールについて簡単に説明した。

〔事務局〕 大江川準備書のアセス手続きの状況ですが、準備書に対する市民等意見への事業者の見解である「見解書」が11月29日に提出され、12月8日から12月22日までの間、縦覧を行い、12名の方にご覧いただきました。

また、「見解書」について環境の保全の見地からの意見を伺うための「公聴会」について、1月6日まで意見陳述の受付を行い、1名の方から申し込みがありました。

「公聴会」につきましては、1月28日（土曜日）午後1時30分から、事業予定地に隣接しております、名古屋市大江破碎工場内集会室にて行う予定となっております。

本日は、「第4回審査会までの質問と回答」を最初に説明させていただきます。

その後に、環境項目のうち、植物、動物、生態系、人と自然との触れ合いの活動の場についてご審議いただきたいと存じます。

それでは、以後の取り回しは市野会長にお願いいたします。

議題 大江川下流部公有水面埋立てに係る環境影響評価準備書について

[会 長] それでは、議題「大江川下流部公有水面埋め立てに係る環境影響評価準備書」についての審議に入りたいと思います。

まずは、資料「令和4年度第4回審査会までの質問と回答」について、事務局から説明をお願いいたします。

[事務局] 資料のページが多いため前後半に分けて説明させていただきます。

(資料-前半について説明)

[会 長] ありがとうございます。ただ今の説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたら、遠慮なくお願いいたします。

[委 員] 2点ありまして、袋の耐用年数について、埋めることで紫外線の影響を受けないことから半永久的というご説明でしたが、その根拠となるようなデータをお示ししていただきたいというのが1点。2点目は、モニタリングについて計12年間行うとのことでしたが、やはり工事が終わった後もかなりの長期にわたって必要かと思います。1点目の質問にも繋がりますが、有害物質が漏れだしていないかというのは工事中よりも工事後が大事になるかと思います。モニタリング計画を今後検討するとのことご回答でしたが、事前に示していただければと思います。

[事務局] 1点目の耐用年数について、途中で有害物質が漏れてしまったら意味がありませんので、お示しできるデータがあるかどうか事業者を確認させていただきます。2点目のモニタリングですが、現状では工事前、工事中10年間及び工事後と計12年間のモニタリング計画を基本として検討していくと回答いただいておりますが、事業者としてどこまで考えているのか確認させていただくとともに、今後、当審査会からの答申にどのように盛り込んでいくのか、委員の皆様と調整していきたいと考えております。

[会 長] 残り後半部分について事務局より説明をお願いします。

[事務局] (資料-後半について説明)

[会 長] ありがとうございます。ただ今の説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたら、遠慮なくお願いいたします。

[会 長] 袋詰め脱水処理工法で添加剤の有無が示されていましたが、データ上は添加剤有りの方が袋の中に有害物質が残っているという結果になっています。今回の工事では添加剤を加えることを検討しているのか教えていただきたいのが1点目。2点目は袋を1,2段積み上げて転圧していくとのことですが、どのタイミングで積み上げていくのか。袋の中の水分量がこの程度になったら積み上げるといった計画なのかを教えてください。

[事務局] 添加剤有りの方が袋の中に残るということで、一般環境中へ排出しにくくなるため加えていただきたいと思います。どのような計画になっているか事業者を確認いたします。2点目のどのタイミングで積み上げていくのかについて、ある程度水分が抜けたら積み上げていくことになるかと思いますが、転圧すればさらに排水は進むことになるかと思いますが、その排水についても有害物質排水処理施設で処理することになるのかと合わせて事業者を確認させていただきます。

[会 長] 続いて、植物について事務局より説明をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

[事務局] (植物について説明)

[会 長] ただ今の説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたら、遠慮なくお願いいたします。

[委 員] 準備書 343 ページのアキノミチヤナギですが、事業予定地内で 51 個体確認されたとあります。また、事業による影響はあると予測されるが、周辺に生育情報があり、確認個体数も多くないことから、名古屋港湾における地域個体群に及ぼす影響は小さいものと予測されています。

しかし、準備書 339 ページで名古屋市内には、南区の大江川及び港区側にもあるがそれ以外の生育情報の確実な資料はないとされており、この部分を読む限りでは、名古屋市内には本事業予定地にしか生息していないのではないかと危惧しております。

次に準備書 341 ページでアキノミチヤナギはオレンジ色の楕円で示されております。河川左右岸道路には生育していないかと思しますので、本事業による埋立てが行われた場合、名古屋市内では絶滅してしまう可能性があります。名古屋港湾内の他地点にあるのかどうか、また、河川左右岸道路などの埋立てを行わない地点に生育しているのか教えていただきたいのと、保全を行うことについても検討していただきたいと思います。

[事務局] アキノミチヤナギが周辺に生息しているとの資料があるのかどうか、埋立てを行わない場所にも生育しているのか、それと合わせて準備書 341 ページの表記方法について事業者を確認させていただきます。

また、事業予定地内の埋立てを行う場所のみに生息していた場合、名古屋市内のものは絶滅してしまうことになりますので、その場合どのような対応ができるのかも事業者を確認させていただきます。

今後、当審査会からの答申にどのように盛り込んでいくのか、委員の皆様と調整していきたいと考えております。

[会 長] 他にありませんでしょうか。

続きまして、動物について事務局より説明をお願いいたします。

[事務局] (動物について説明)

[会 長] ただ今の説明につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

[委 員] 準備書 398 ページで、工事中にニホンウナギが移動するから問題ないと記載されておりますが、ウナギは泳ぐのが上手ではなく工事が始まってすぐに移動できるわけではないと思います。このような生物について、移動できるから大丈夫という評価は問題ないのでしょうか。

[事務局] 今回の工事計画では、河川全体を一度に埋立てるのではなく、まず左岸側から埋立て、右岸側は河川が残った状態になります。そのため、埋立てが開始されても右岸側で上流下流に移動できるのではないかとということで、準備書では予測結果等に反映されております。

[委 員] 上流側・下流側どちらから工事を開始するかで状況が変わるかと思います。下流側から工事を開始すると上流側に逃げてしまいますので、できたら上流側から工事を進めていただきたいと思います。その辺り、魚類関係の専門家に相談して生物の生息域を残しつつ工事を進めることができる工事計画を作成していただければと思います。

[事務局] 現段階でも、ある程度工事計画を検討しているかと思います。動植物等に配慮した工事計画とすることも、環境配慮の一環だと思いますので、事業者に伝えさせていただきたいと思います。

[会 長] 準備書 371 ページのテナガエビとシラタエビの手の長さが同じように見えるのですが、これは専門家の方がしっかりと判別しているのでしょうか。

[事務局] 専門家がしっかりと判別し、種数・個体数を計測していると思います。

[会 長] 他にありませんでしょうか。
続きまして、生態系について事務局より説明をお願いいたします。

[事務局] (生態系について説明)

[会 長] ただ今の説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

[委 員] 今回の準備書のまとめ方として、周辺にも生息状況があるため影響は小さい、ヨシ群落では二次的な植生なので名古屋港湾に及ぼす影響は小さいとなっていますが、現状名古屋港湾では色々な場所で埋立てが行われています。一つ一つの事業規模は小さいので影響は小さいとして次の事業を進めると、どこにも動植物の居場所がなくなってしまう。また二次的な場所だからといっても、動植物はそのような場所でも安定していれば生息しています。このように二次的だからといってなくしてしまうと動植物が戻ってくる場所もなくなってしまうので、汽水域の動植物が危機的な状況にあると思っています。

一つ一つの事業ではなく、名古屋港湾全体を長期的な視点で考えていく必要があると思います。幸いにも名古屋市には、生物多様性センターという組織がありますので、是非連携を図っていただき、現状の名古屋港湾の汽水域がどのようになっているのか、今後どのように変化していくのかについて、情報交換を進めていただきたいと思います。

[事務局] 累積的影響を考慮してほしいといったご意見かと思います。累積的影響をどのように評価していくのか今のアセス制度では評価しづらいこともあり、他自治体のアセス制度でも同様であると聞き及んでおりますが、本市においても累積的影響をどのように取り扱っていくのか、課題であると考えております。

ただ、名古屋港全体の港湾計画を定めていく中で、全体を見通した環境配慮について検討を行っているとも聞いております。

先程の生物多様性センターとの連携に取り組み、今後の港湾計画に反映していただきたいとのご意見につきましては、事業者に伝えさせていただきます。

[委 員] ぜひよろしくお願いします。

[会 長] 他にありませんでしょうか。
続きまして、人と自然との触れ合いの活動の場について事務局より説明をお願いいたします。

[事務局] (人と自然との触れ合いの活動の場について説明)

[会 長] ただ今の説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

[委 員] 準備書 437 ページで、調査を実施した休日よりも平日の利用者は少なくなると書かれております。利用目的が散策やジョギング、犬の散歩等であれば平日と休日にあまり変化はないと思いますが、どこから出した考えなのでしょう。

[事務局] 準備書上では読み取れないため、事業者を確認させていただきます。

[会 長] 事業予定地近辺に保育園・幼稚園があると、平日の散歩で利用されることがあるかと思いますが、周辺に保育園・幼稚園があるのでしょうか。

[事務局] 準備書 105 ページに周辺の保育園・幼稚園の状況が記載されており、事業予定地より少し離れたところに立地しております。

[委 員] 工事中はどうしても我慢していただく部分があるかと思いますが、埋立て後について、綺麗に整備されたりして歩きやすくなるなどあるのでしょうか。また、整備内容について、事前に住民の方に説明はあるのでしょうか。

[事務局] 埋立て後は緑地を整備する計画と聞いておりますが、その整備内容については検討段階ということで、地元の方々の意見を聞きながら進めていくとも聞いております。

[委 員] 整備内容が決定されるのは埋立て工事中なのか、工事完了後なのか、どのタイミングでしょうか。

[事務局] 整備内容が決定されるタイミングは聞いておりませんので、事業者を確認させていただきます。

[会 長] 他にありませんでしょうか。

[会 長] それでは、本日予定されておりました議題は以上となりますが、事務局から他に何かございますか。

[事務局] 本日はありがとうございました。次回の審査会の日程ですが、2月16日（木）午前10時より、本日同様ウェブでの開催を予定しております。内容は、公聴会の説明、準備書のうち、総合評価、事後調査及び意見のとりまとめについて説明を予定しております。

また、先般より各委員の皆様にはお伝えしておりましたが、現在の委員の任期は1月末となっております。しかし、大江川下流部公有水面埋立てに係る準備書についてご審議いただいている途中であることから、委員の皆様には引き続きお願いしたく、委嘱の手続きを進めてさせていただいております。

今後も手続きなどをお願いすることもあるかと思いますが、引き続きよろしく願いいたします。説明等足らない部分もあったと思いますので、準備書等ご覧いただき、お気づきの点ございましたら、事務局までメール等でいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

[会 長] それでは、これをもちまして本日の審査会を終了いたします。
皆さん、ありがとうございました。